



仙台市立仙台青陵中等教育学校 PTA 便り

第 2 号

令和 2 年 5 月 吉日 発行

発行者: PTA 役員会
(代表 丸山水穂)



青陵サポーター

皆様お世話になっております。

先日青陵サポーター第 1 号を配信いたしましたところ、たくさんの方にお読みいただき、また、あたたかいお言葉もいただきました。本当にありがとうございました。

1 号でもご紹介した ICT がその後開始し、私はひそかに、我が子の生活に少しメリハリができたのではないかと考えていますが、皆様はいかがでしょう？

宮城県は緊急事態宣言も解除され、6 月 1 日からの学校再開が現実的になってきたことにより、先が見えてきてほっとする気持ちと、コロナ第二波も含め、登校が始まってからの子どもたちの健康を心配する気持ち等、いろんな気持ちが交じり合う日々ですが、まずは今子どもたちが元気でいてくれることに感謝しながら、1 日 1 日を大事に過ごしていきたいと思っていますところ。

そんな日々の中で、少しでも楽しい気持ちになっていただけるような情報発信ができるといいなと思い、青陵サポーター第 2 号をお届けすることにいたしました。

今回は、後期教頭の若林教頭先生と前期教頭の渡部教頭先生が、たいへんお忙しい中快くご協力くださり、とても楽しく、読み終わると学びたい講話をご寄稿くださいました。

また、今本部役員の中では、5 年生の学年だよりが「学びの楽しさを伝えてくださっていて面白い」と話題になっているのですが、これを是非皆様にご紹介しようと、本号に 5 年生の保護者役員の小田川さんによるコラムを掲載いたしました。

本号は、いわば「楽しい学びのすゝめ」特集です。

是非、お子さんと一緒に親子で楽しんでいただけますと幸いです。

(PTA 代表 丸山水穂)

「5 月を迎えて」

PTA 事務局長 前期教頭 渡部 健一

新型コロナウイルス感染症対策のために臨時休業が現在も続いています。終息の見えない状況の中で希望を持つことや当たり前の日常が、今回ほど愛おしいものであると気づかされたことはなかったのではないかと思います。

書店では、カミュの長編小説『ペスト』が売れているそうです。新型コロナウイルスからの連想でこの古典を求める人が多いのだそうです。

カミュが『ペスト』を発表したのは 1947 年。44 歳の若さでノーベル賞を受賞しました。そして 3 年後の 1960 年、交通事故で亡くなります。小説は、アルジェリアのオランの町にペストが流行し、閉鎖された町の中でもがく人々を描いた内容です。異なる主義主張や性格を持った人物が登場し、神に頼らず敗北者の側に立つリウー、ペストと戦うタルーなどの言行が静かに綴られています。関心を持った方には是非読んでほしい作品です。

さて、石川啄木の「ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山は ありがたきかな」という詩に登場する「ふるさとの山」とは岩手山であると伝えられます。作品中の山は圧倒的な存在感があります。本校からは泉ヶ岳や船形山を見あげることができ、仙台の街や遠く海をのぞむこともできます。環境は人を育てるといいます。啄木の育った盛岡に偉人たちが多いのは、偶然とは言い難い自然の力があるせいではないかと思えてなりません。

暦は 5 月になりました。花は桜から藤に、風光る季節から、風薫る季節になったのです。本校の教育方針は「知性を高め、感性をはぐくみ、意志を鍛える」ことです。授業再開のおりには、豊かな自然や特色ある学習環境の中で、生徒が夢を育ててほしいと切に願う今です。

赴任して二年目になります。よろしく願いいたします。

突然ですが、質問をしたいと思います。「PCR 検査とはどのような検査ですか。」

ご存じの方も多いと思いますが、PCR とはポリメラーゼ・チェーン・リアクションの頭文字の略語で、遺伝子 DNA を大量にコピーする方法です。なぜ、DNA を増やさなくてはならないかというと、1本の DNA では小さすぎて、見分けがつかないからです。大量にコピーすると、それぞれの生物の DNA の違いが分かるようになります。人間も一人一人の DNA が 0.1%程度異なっているために、顔や身長や性格が違ってきます。性格の違いとは脳の違いです。神経細胞の違いとも云えます。近年、PCR によって DNA の違いが分かる時代になり過去の生物学の常識がどんどん塗り替えられています。そして、今は新型コロナウイルス検出という大きな役割を担っています。さて、この方法を発見した人は誰なのかご存じでしょうか。米国の科学者キャリアー・マリス氏です。ノーベル賞を受賞しました。マリス氏を一言で紹介するのは難しいのですが、チャライヤンキーでクレバーで正直な天才です。もし友達だったなら最高に面白い人だったでしょう。彼はノーベル賞の授賞式で目立ちたくて、真っ赤なモーニングで出席したいと言って断られたり、法的に問題ないという理由で法律上存在しない物質で人工麻薬を合成して遊んでみたり、もう無茶苦茶です。ぜひ伝記を読んでみてください。

それでは、2つめの質問です。「紙1枚の厚さを測る方法は。」

そう答えは、100枚重ねてモノサシで計り100で割ればいいですね。最近、TVで鼻の中に綿棒を突っ込み、コロナウイルスの有無を調べている様子を観たことがあるのではないかと思います。コロナウイルスは極めて小さいので普通に分析しても量が測定限界以下で存在の有無が確認できません。コロナウイルスはRNA遺伝子を持っているので、一旦DNAにしてからPCRで増幅しています。そう、DNAも小さすぎるので、紙の厚さを測るのと同様にPCRで増幅して可視化するのです。

最後に、3つめの質問です。「高温の温泉(70℃)に生物は生息しているでしょうか。」

答えはYesです。好熱菌が生きています。この菌は常温になると死滅してしまいます。PCRでは好熱菌の持つDNA合成酵素(ポリメラーゼ)を利用しています。PCR反応とは70℃で合成→90℃で分離→70℃で合成…の繰り返し(チェーン・リアクション)、つまり、温度を上下させるだけでDNAが増えていくという、夢のような方法です。単純で間違いがありません。

さて、皆さんは学校が長期休業になり、学校での学びから離れています。勉強から離れて清々している人もいでしょう。では、少し考えてみましょう。天才マリス氏の話はどうでしたか。PCR検査の歴史や方法、今、医学で行われていることが見えてきましたか。身の回りにある情報を理解できるようになると、世の中が透けて見えます。

青陵生には、今の時期は読書を「マリス博士の奇想天外な人生(キャリアー・マリス)」「DNA(ジェームス・D・ワトソン)」「動的平衡(福岡伸一)」「生物から見た世界(ユクスキュル)」あたりをお薦めします。本来、知ることは楽しいものなのです。

学年だよりから得られる学びの楽しさ

今年は学校に行けない状況が続いている中で、各学年とも例年よりたくさん発行されているようです。普段見るのは自分の学年だけかも知れませんが、たまにはほかの学年も見てみませんか？

5学年の学年だよりには、通常のお知らせのほか、先生からのおすすめの本やオモシロ文房具なども紹介されています。第9号では数学の中島先生ご推薦の「18cm素数モノサシ」の紹介でした。長さ18cmのモノサシについているのは、2・3・5…、と素数の目盛りだけ。不便！ではありますが、なぜか1～18cmの1cmごとの線分はちゃんと引ける、というモノ。ちなみに先生は977円(←これも素数)で購入されたとのことですが、手作りでもできます。ちゃんと1cm刻みの線が引けるのか試してみは？

(P T A事務局次長 小田川 斉)

6月からの学校再開に向け、生徒達が安全・安心して学校生活を送れるように保護者としてサポートしていきたいと思います。今後とも本校P T A活動にご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

